

川に見る・日本の四季⑤ 木曾川水系の「春」を追う

ダム湖の水面を彩る絢爛たる桜の帯。

日本のほぼ中央部、岐阜県内の“川と春”を追って走り回った。出合ったのが、花曇りの下の桜並木である。場所は、馬瀬川第二ダムのダム湖畔。

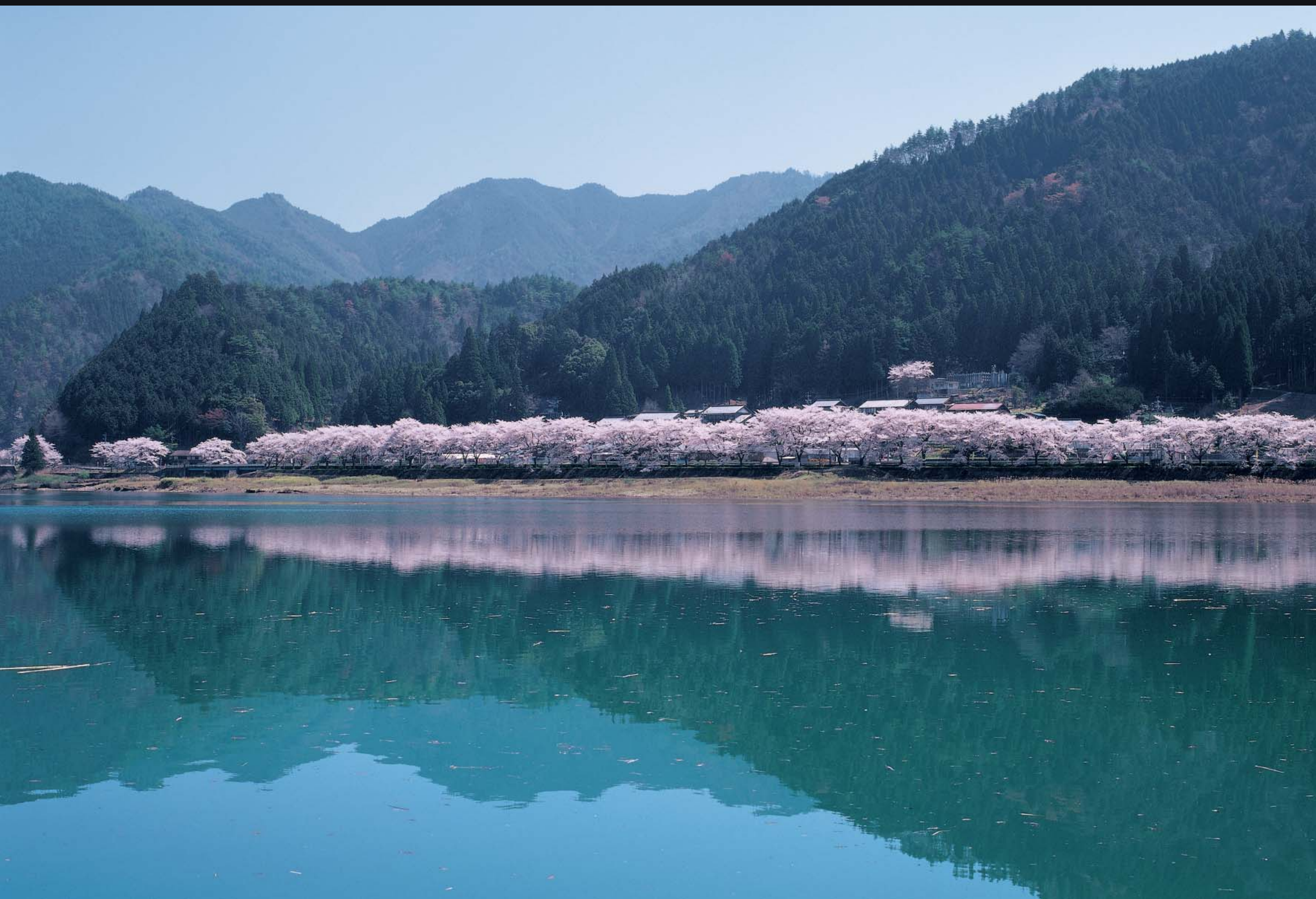
下呂市金山町で、飛騨川との合流点から馬瀬川に入った。荒々しい飛騨川の流れと異なり、馬瀬川は川幅が狭く、緩やかな流れだ。上流には天然記念物のサンショウウオが棲息していると聞く。それほどに清流ということで、岩魚などの溪流釣りに人気がある。しばらく川沿いに進むと急に視界が開けた。中部

電力が管理する発電専用の馬瀬川第二ダムのダム湖(名称なし)だ。その湖畔沿いにソメイヨシノの桜並木が続いている。長さ約400m。しばし山里を彩る絢爛たる桜の帯を堪能した。地元では八坂湖畔桜と呼び、満開時には湖畔の両側がピンクに染まる。

このほか、奥飛騨に近い長良川上流の阿弥陀ヶ滝、飛騨川の支流小坂川や飛水峡などを回った。穏やかな春の陽を受けて流れは澄み、ヤマツツジなどが彩りを添えていた。



岐阜市から木曾川の上流を目指して川沿いに走る。八百津町で山間部に入ると、砂利道は狭く、すれ違う車もほとんどない。そんな川沿いに満開の一本の桜。ヤマザクラだろうか。対岸にもちらほら。閑かで、川面を渡ってくる風が頬にやさしい。



(上) 飛騨街道(国道41号)を高山市に向かう。小坂町で飛騨川と別れ、その支流の小坂川沿いに走ってみた。岩魚や山女などの溪流釣りで賑わう川だが、解禁前なので閑散としている。岸辺の木々はやわらかく萌え、流れは透明度を増して小石を洗っていた。

(下) 飛水峡(七宗町)は、荒々しい岩肌が続く渓谷だ。飛騨川の激流が長い時間をかけて岩を削り取ってきた鷗穴(ポットホール)群(天然記念物)で知られている。岩の割れ目に根を張った可憐なヤマツツジが、荒々しい光景を和らげていた。